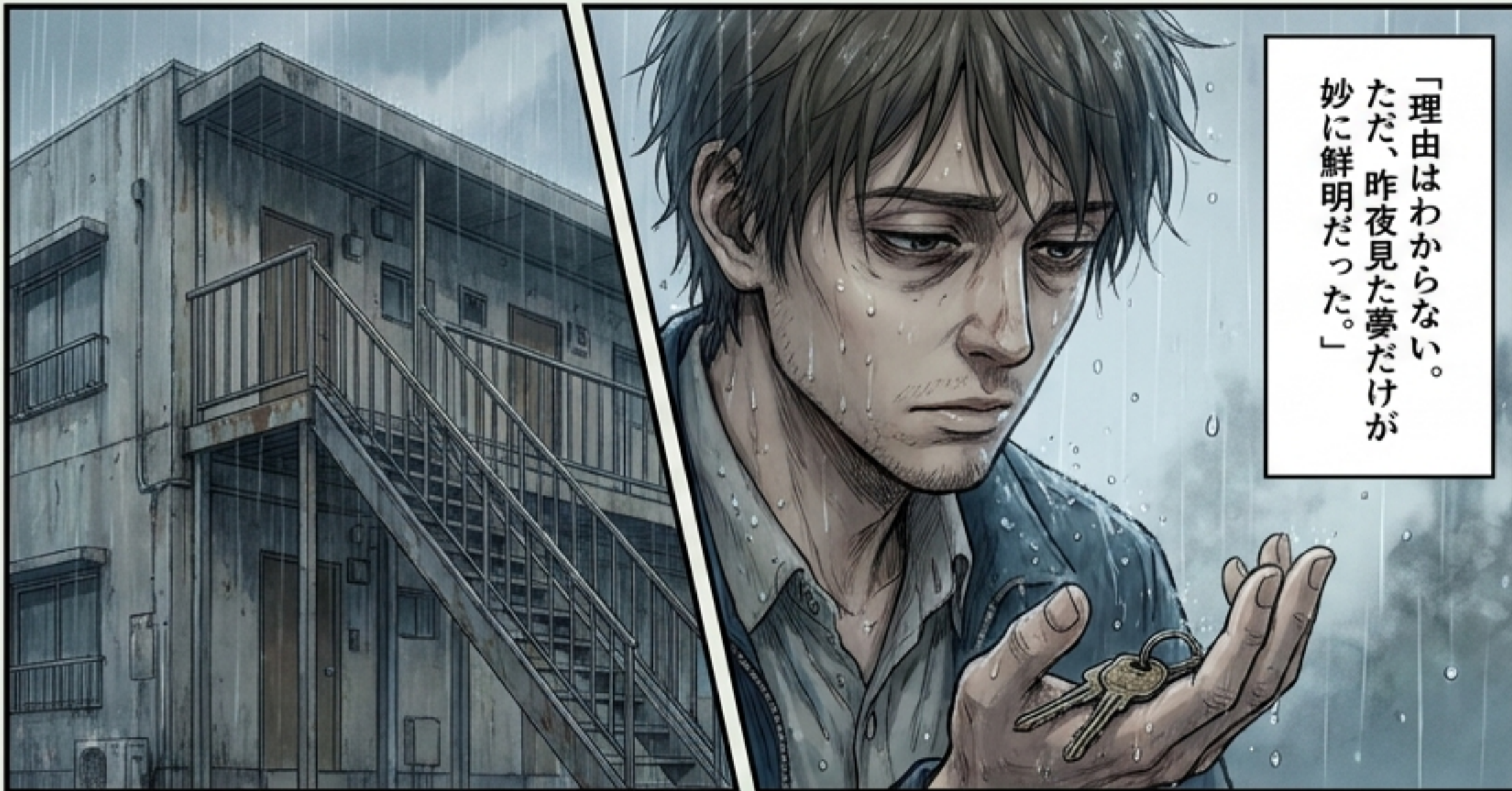


『羅刹の猿園』

砕け散る輪廻とシステムの再構築

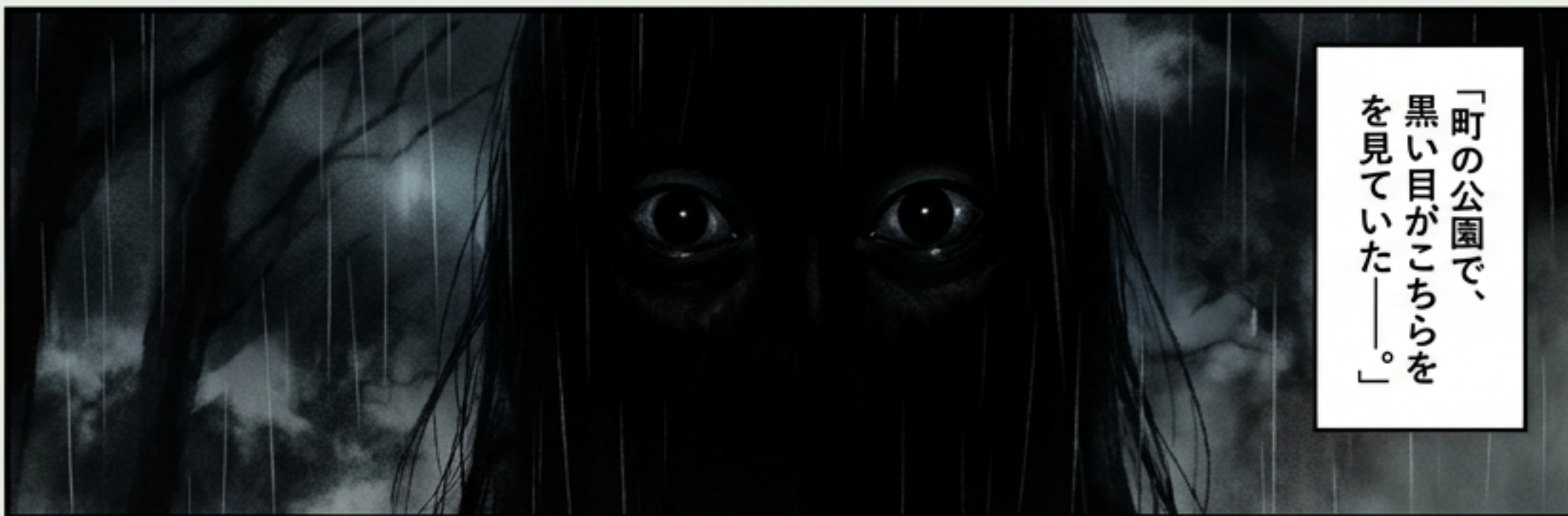




「理由はわからない。
ただ、昨夜見た夢だけが
妙に鮮明だった。」



「日曜の朝。
仕事は悪くない。
けれど……胸の奥に
ずっと引っかかっている
不安がある。」



「町の公園で、
黒い目がこちらを
を見ていた——。」



入口のフェンスは一部、
押し広げられている。



公園に近づくほど、
妙な匂いが濃くなっていった。
消毒薬のようなツンとした臭いと、
生臭い熱の気配……



誰か……？



誰かがスマホを掲げていた。
画面の向こうで、俺が走って
映像が撮られている——
そんな不条理な予感。



威嚇ではない。
逃げ遅れた人を
探すように、無差別に
群れへ突っ込んでいく。

やめろ、
くるな!

「こっちだ！
こっちへ！」



黒い目が瞬きし、口元が歪む。
次の標的を決めたような、
冷たい確信。



痛みが走る。
視界が白く飛び、地面が近づく。
チンパンジーの息づかいだけが、
妙に近い——。



次の瞬間、
時間がぐにやりと
捻じ曲がる感覚が走る。

『死に戻り』

やめろ、
くるな！

——世界が巻き戻る。
また、同じ雨の朝。
入口のフェンス。
公園の悲鳴。





- ❌ 棒で戦う → FAIL
- ❌ 人を逃がす → TOO SLOW
- ✅ 管理車両 → ANOMALY FOUND

……頼む。
運があるなら、
ここだ



駐車場の端にある管理車の鍵が、
なぜか刺さったままだった。
昨日の夢では見なかった、偶然。

「無差別に走る『羅刹』は、音と熱に引き寄せられている。なら——車で誘導して、轢く。」

「倫理も恐怖も、頭の中で一だけ鳴り響いた。音が、ひどく鈍い。衝撃のあとと、車の前にあった影が崩れた。」





「目の前のチンパンジーは動かない。
動かない。
人々の悲鳴は、少しずつ安堵と
泣き声に変わっていく。」



「やったはずなのに、
胸の底は空っぽではなかった。
罪悪感が、遅れてくる。
自分は殺した。
獣ではあるが、命は命だ。」



現場では、理由よりも
結果が先に見える。
手錠の重さが、罪の重さとして
身体に沈んでいく。



あなた、
何をしている！
止まれ！



【運命の分岐点：死に戻りの検証】

『ループ2：加害者としての生存』



- 行動：管理車両による轢殺
- 結果：自身の逮捕、被害最小化
- 代償：罪悪感と自由

『ループ1：被害者としての死』



- 行動：棒での陽動
- 結果：自身の死、被害拡大
- 代償：命

「死に戻りは『自身の死』を条件とする。
逮捕（生存）を選んだ今、ループによる解決は不可能となった。」



「もっと別の手が
あったのではないか。
死に戻りが使えないな……」



「犯人探し、手伝えます。
あの個体が
“どこから来たかか”を
特定したい。
たぶん、鍵は管理です。」



「暴走運転です。
人を守るためとはいえ、
死傷者が出ています。」

【羅刹の蹂躞】

環境：
押し広げられた
フェンス



管理：
刺さったまま
まの車両の鍵

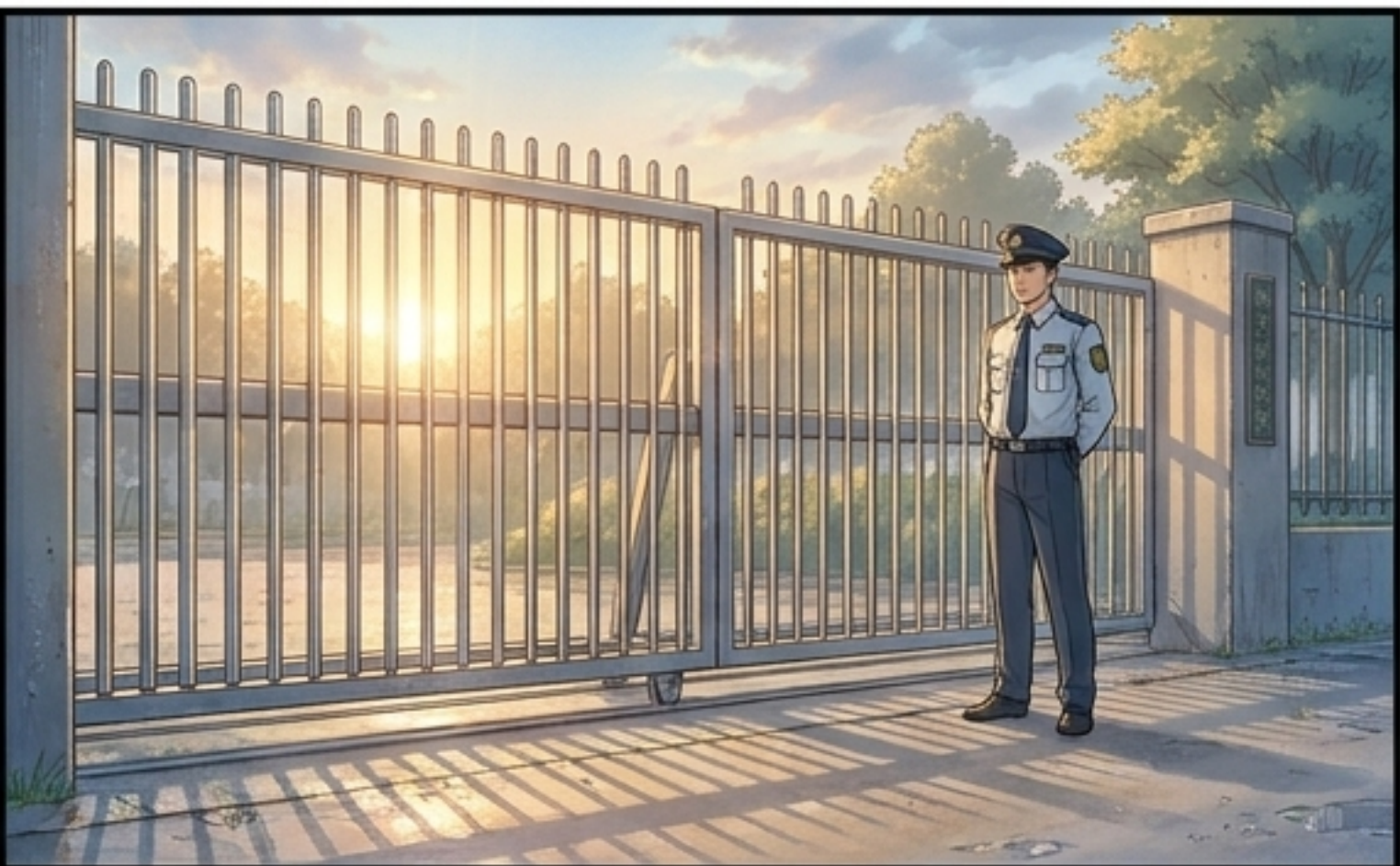


対象：
逃走した
チンパンジー

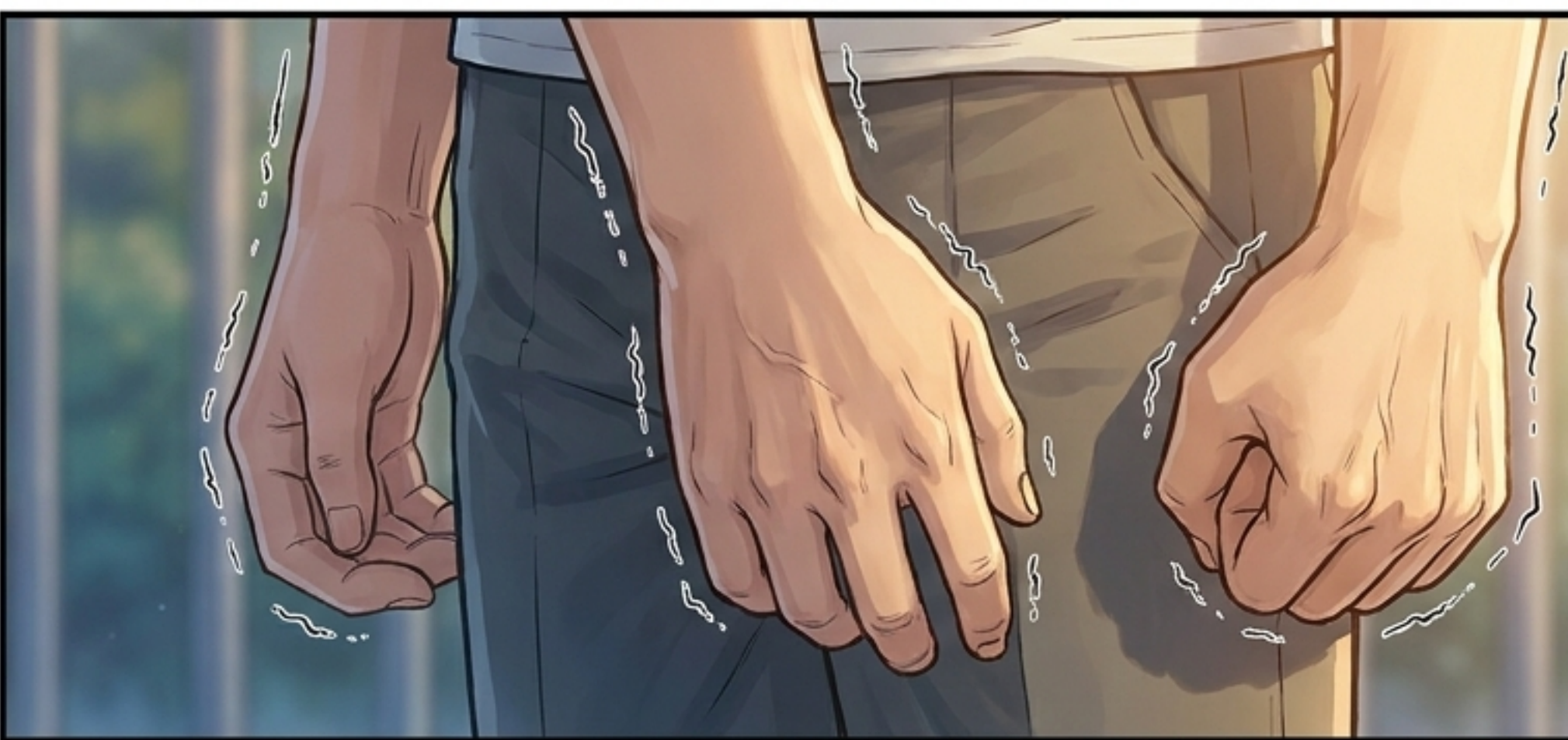


「次の被害を防ぐために
必要なのは、銃や暴力ではない。
侵入口と逃走経路の封鎖、
そして飼育管理の徹底だ。」





「雨上がりの朝。
フェンスは補修され、
警備員の姿がある。」



「生きて償う。
次は、誰も
死なせない——。」

羅刹の猿園を終わらせるのは、
運命じゃない。
選り直す意志だった。